
ACTA
PHYTOTAXONOMICA ET GEOBOTANICA
 植物分類及植物地理

Vol. IV.

Oct. 1935

No. 3

日本産スズカケサウ屬

The Japanese Species of *Botryopleuron*

by Jisaburo OHWI

大井次三郎

第三紀以來西南日本は洪積世の初まで支那と地續きの關係に在つたと云はれて居るだけに兩地だけに共通の特有の屬が可なり知られて居る、玄參科の小屬である此のスズカケサウ屬もその例に洩れず大体同一軌のもので、日本では九州、四國、及び本州の太平洋岸西南部に、支那では中部から南部にかけて分布して居るがそれ以外には知られて居らない特有の屬である。

此の屬に含まれる種類の内最も早く記載されたのは本邦のトラノヲスズカケで、1846年に SIEBOLD et ZUCCARINI が *Paederota axillaris* SIEB. et ZUCC. として發表した、その後 BENTHAM et HOOKER fil. (1876) が、ネパール及び雲南に産する *Calorhabdos* (此の屬のものは後に支那にも、最近は台灣にも分布する事が知られて六種程に成つて居る) に屬すべき事を指示して以來、暫らく之れが採用された、HEMSLEY は支那で此屬名の下に數種を記載したが同氏は 1900 年に至り HOOKER, *Icones Plantarum* t. 2670 に於て *A. Calorhabdo differt caulibus vagantibus vel prostratis, racemis axillaribus amentiformibus, corollae limbo subaequaliter 4-lobato, staminibus longe exsertis.* と云ふ記載と共に *Calorhabdos venosa* Hemsl. を事實上の基準品として *Botryopleuron* HEMSL. 屬を設けそれが今日に至るまで採用されて居る、歐洲産の *Paederota* や本邦にも多數の種類のある *Veronica* とは葉が全然對生せぬので區別される、*Calorhabdos* との相違は莖が平臥して上の方が蔓状になり花序が葉腋又は側枝の頂端に着く事にあるが HEMSLEY が指適した様な花部の相違は少くとも本邦産のものには認められな

い、此の属の特徴を次に略述すると。

萼は五全裂、裂片は狭長、稍不同長、鋭尖頭、花筒は内面有毛、裂片は四個、後方(上側)の一片は他よりも少しく巾廣、雄蕊は二個、後方の花冠裂片の縁邊にて花筒に着生、多くは超出、花糸は基部有毛、葯は背面の中央又は上部にて花糸に着生、二室、各室は稍開張、花柱は糸状、花筒より超出、全縁平滑、柱頭は肥厚せず、胚珠は多数、蒴果は稍扁平、両面に溝あり、胞間及胞背裂開し四個の小辨となる、中央に胎座を有する軸を残す、——平臥又は上部屢々蔓状の草本又は稍直立せる少しく分枝する灌木、有毛又は無毛(但し葉腋等に僅数の毛茸ある事あり)、葉は互生、總状花序は腋生又は短枝及び稀れに主軸の先端にも生じ、密花、花は一個の苞を有す、——日本(本州、四國、九州、琉球、台灣)及び支那中部、南部に産し、種數約 II。

以下例によつて本邦産の種類の種類検索表並に解説を記すと、

檢 索 表

- 1) 莖及葉は褐色多細胞の長開出毛を稍密生す。
.....1 スズカケサウ。
- 1) 莖及葉は平滑又は極めて短かき毛茸を疎生す。
 - 2) 莖・葉柄・葉身の裏面及表面脈上に極短き毛茸を疎生す。
.....2 キノクニスズカケ。
 - 2) 莖及葉は平滑。
 - 3) 莖は殆んど円柱形。葉は長楕円形又は卵形。
 - 4) 總状花序は密花。長さ 1.5-3 cm. 稍無柄。葉は歪三角形の鋭鋸齒あり。
 - 5) 葉は草質。葯は長さ約 $\frac{2}{3}$ mm.
.....3 トラノヲスズカケ。
 - 5) 葉は稍草質。葯は長さ約 1.5 mm.
.....5 タカサゴトラノヲ。
 - 4) 總状花序は稍密花。長さ 4-6 cm. その梗は長さ 2-3 cm. 葉には微凸頭の稍鈍き壓着されたる鋸齒あり。
.....4 リウキウスズカケ。
- 3) 莖は狭き翼あり。葉は廣披針形。
.....6 タロコサウ。

Oct. 1935.

125

1) スズカケサウ

Botryopleuron villosulum MAKINO in Bot. Mag. Tokyo 20 (1906) 87.*Paederota villosula* MIQ. in Ann. Mus. Bot. Lugd. Bat. 2 (1865) 118; FRANCH. et SAVAT. Enum. Plant. Japon. I (1875) 347.*Calorhabdos villosula* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo 10 (1896) 252.*Calorhabdos axillaris* var. *villosula* BENTH. et HOOK. fil. sec. MAKINO l. c. (1906) 87, pro syn.

一米前後の草本。莖は円柱形。上部は稍蔓状を呈し。先端屢々根を發して新植物を生ず。莖。葉。苞。萼には褐色にして先端時に腺を有する多細胞の開出毛を稍密生す。葉は卵形。短柄。長さ 5-13 cm. 巾 3-5 cm. 長鋭尖頭。廣楔脚。裏面淡色。歪三角形の鋭鋸齒あり。總狀花序は甚だ短。殆ど球形。長さ巾共約 10-15 mm. 無柄。腋出。花は莖色。殆ど無柄。苞は披針形。長さ約 6 mm. 鋭尖頭。萼は五裂。裂片は不同長。線狀披針形。鋭尖頭。長さ 2.5-4 mm. 花冠は長さ 7-8 mm. 花筒は円筒狀。長さ 6-7 mm. 外面平滑。内面は基部を除きて開出毛あり。裂片は四個。頂片は廣三角形。他の三片は三角形。何れも鋭頭。雄蕊は長く超出。花筒の約二倍。花筒の中央部よりも稍下方に着生。花糸は針狀。下方約 $\frac{1}{2}$ の部分に開出毛あり。約は長さ約 1.5 mm. 子房は廣卵形。稍扁平。両面に溝あり。花柱は長さ 10 mm. を超ゆ。

可なり古くから知られて居た種類で飯沼慾齋の草木圖説第一卷 20 圖版にも圖解がある通りである。自生地に関しては同書の改訂版に牧野博士が「未だ本品の自生地を得ず而して極めて稀に栽培せらるゝ多年生草本なり」とある様に全く不明であつたが。近頃岐阜市の波磨實太郎氏の御厚意によつて之れが自生品と思はれる標本を得る事が出来たのは悦ばしい次第である。氏によれば美濃國。不破郡。府中村内の竹藪中に極めて稀に自生して居ると。飯沼慾齋は同書中に。莖葉共に細毛ありて粗澁と記して居るが本品を指したものであらう事は疑ふ余地がない。牧野博士の植物圖鑑 160 頁に精細な圖があるので参照せられたい。只花冠の裂片は圖よりも稍短かめの様に思はれる。又牧野。根本。両氏の植物總覽に。高さ六七尺。とあるのは恐らく最大限度を示したものと思はれる。此の植物については波磨實太郎氏。並びに奥山春季氏に御迷惑をかけたので御芳志に深謝する次第である

2) キノクニスズカケ

Botryopleuron Tagawae OHWI¹⁾ in FEDDE Repert. 36 (1934) 53.1) Pube simile ad *B. yunnanense* W. W. SMITH, quod tamen truticulus est, foliis brevioribus,

1-2 米の草本。莖は円柱形。上部屢蔓状。先端屢地に附きて根を發し新苗を生ず。莖葉柄。葉裏及び表面の脈上に微細なる反曲せる毛茸を疎生す。葉は卵形又は長橢円形。短柄あり。長さ 8-15 cm. 巾 3-5 cm. 裏面淡色。稍鋭尖頭。廣楔脚。鋸齒は甚だしく壓着し殆んど先端の開出微凸頭の部分のみと成る。總狀花序は密花 殆ど無柄。長さ 2-3 cm. 短円柱形又は長橢円狀円柱形。花は殆ど無柄。苞は一個。披針形。平滑。鋭尖頭。長さ略 2 mm. 萼は五裂。裂片は少しく不同長。線狀披針形。長さ約 2 mm. 前後。鋭尖頭。花冠は長さ約 6 mm. 花筒は円筒形。長さ約 5 mm. 外側平滑。内面上部に毛茸あり。裂片は四個。三角形。平滑。鋭頭。淡紅紫色 (田川氏による)。雄蕊は超出。花糸は針形。下部有毛。葯は長さ約 1 mm. 蒴果は廣卵形。長さ約 2.5 mm. 花柱は糸狀。長さ約 8 mm.

本州の紀伊國。東牟婁郡。古座川の沿岸の産。恐らく宇井縫藏氏紀州植物誌に出て居る *トラノヲスズカケ* も此の植物の事かと想像するが。其と比較して葉の鋸齒が著しく低平で殆んど開出せる微凸頭の部分だけが目立つに過ぎず。莖。葉に微毛があり。花筒と裂片との比。花柱の長さ等に相違は認められるが兎に角似た習性のものである。

3) *トラノヲスズカケ*

Botryopleuron axillare HEMSL. in HOOK. Icon. Plant. 27 (1900) sub t. 2670; MAKINO in Bot. Mag. Tokyo 20 (1906) 88.

Paederota axillaris SIEB. et ZUCC. in Abh. Akad. Muench. 4:3 (1846) 144 WALP. Ann. I (1848-49) 535; MIQ. in Ann. Mus. Bot. Lugd. Bat. 2 (1865) 118; FRANCH. et SAVAT. Enum. Plant. Japon. I (1875) 347.

Calorhabdos axillaris BENTH. et HOOK. fil. apd. S. MOORE in Journ. Bot. (1875) 230; HANCE in Journ. Bot. (1877) 298; FORBES et HEMSL. in Journ. Linn. Soc. 26 (1890) 195; MAKINO in Bot. Mag. Tokyo 10 (1896) 252.

Paederota bracteata SIEB. et ZUCC. l. c. (1846) 145; WALP. l. c. (1848-49) 535.

Calorhabdos bracteata MAKINO in Bot. Mag. Tokyo 10 (1896) 252.

Calorhabdos axillaris var. *bracteata* BENTH. et HOOK. fil. sec. MAKINO l. c. (1906) 89, pro syn.

1-2 米に達する草本。全体平滑。莖は円柱形。上部屢蔓状に伸長し。先端より根を發して新苗を生ず。葉は長さ 5-10 cm. 巾 2.5-5 cm. 稍草質。短柄。長橢円形及至卵形。

racemis longioribus, corollae lobis longioribus lanceolatis. Etiam a *B. axillari* HEMSL. diversum pube, foliorum serris valde adpressis, corollae tubo quam lobo multo longiore, stylo longiore.

(上葉は小形にして時々廣卵形) 鋭尖頭 円脚又は廣楔脚. 下面淡色. 歪三角をなせる鋭鋸齒あり. 總狀花序は腋生又時に頂生. 通常無柄. 短き又は長橢円狀の円柱形. 長さ 15-30 mm. 密花. 花は紅紫色. 殆んど無柄. 苞は線狀披針形. 萼より少しく長く. 平滑又は一二の縁毛あり. 鋭尖頭. 萼裂片は五個. 線狀披針形. 長さ 3-4 mm. 長鋭尖頭. 平滑. 殆んど縁毛なし. 花冠は長さ約 5 mm. 花筒は短筒形. 長さ約 3 mm. 外面平滑. 内面中央部以上に開出毛あり. 裂片は四個. 平滑. 鋭尖頭. 上片は三角形. 他の三片は卵狀三角形にして開出. 雄蕊は花筒の中央部に着生. 花糸は針狀. 超出. 基部は有毛. 葯は長さ約 $\frac{2}{3}$ mm. 子房は円錐形. 両面に溝あり. 花柱は太き糸狀. 長さ約 5 mm. 蒴果は卵円形. 多少扁平.

四國. 九州. 及び本州遠江國に自生があり. 又牧野博士は東京市にも (植物研究雜誌 8:95) あると云はれる. 本邦産品中で分布も廣く且一番よく知られて居り. 支那にも産するとの記録がある. 紀州にもあると云ふのは前項のキノクニスズカケと思はれる. 遠江産の標本については東京. 上野の自然科学博物館の 根本莞爾. 奥山春季兩氏の御厚意に負ふ所が多い. 此所に厚く御芳志を謝する. 圖は齋田. 佐藤兩氏. 内外植物誌 216 にもあるが. 牧野博士の植物圖鑑 171 には精細なのが 出て居るので参照せられたい. 只葉の鋸齒はそれよりももう少し 三角形に近いのが 普通であるし又莖には稜と云ふ程のものはなく. 飯沼慾齋の云ふ様に 線條がある と云つた方が 適切であらう. 植物總覽改訂版には葉は披針形となつて居るが 披針形の葉は 甚だ稀れな様に思はれる.

4) リウキウスズカケ

Botryopleuron liukiense OHWI¹⁾ in FEDDE Repert. 36 (1934) 53.

70 cm 前後の草本. 全体平滑. 莖は殆ど円柱形. 低き稜あり. 上部蔓狀. 葉は長さ 6-10 cm. 巾 3-5 cm. 稍顯著なる (3-15 mm.) 柄あり. 長橢円形又は卵形. 兩端鋭頭. 下面淡色. 壓着せる微凸頭の稍鈍き鋸齒あり. 總狀花序は腋生. 円筒形. 長さ 4-6 cm. 稍密花. 柄は長さ 2-3 cm. 數個の披針形. 又は長橢円形の苞あり. 花は知られず. 果實は斜上. 長さ 1 mm 位の短柄あり. 苞は線狀披針形. 長さ約 7 mm. 疎に縁毛あり. 鋭尖頭. 萼は五. 裂片は苞と同形. 長さ約 5 mm. 前後. 蒴果は萼より短かく平滑.

琉球本島の北端に近い楚州の産で田代善太郎氏の採集にかゝる. 此れもトラノヲスズカケに最も近い種類で葉の鋸齒が壓着されて先端が稍鈍く微凸頭に終ると. 花序

1) *B. axillari* HEMSL. proximum, sed diversum serris foliorum adpressis nec oblique triangularibus, racemis elongatis pedunculatis.

が長くて梗が明瞭なのが相違点である。後述のタカサゴトラノヲとも大体同じ様にして區別される。未だ花が知られないので花部の状態は不明である。

5) タカサゴトラノヲ

Botryopleuron formosanum MASAM.¹⁾ in Journ. Soc. Trop. Agric. Taih. 3 (1931) 114.

全体平滑。莖は略円柱形。葉は長さ 2-5 cm. 巾 2-3.5 cm 稍革質。短柄あり。楔脚。鋭尖頭。鋭鋸齒あり。鋸齒は歪三角形。上葉は稍円脚。總狀花序は円筒狀卵形。長さ 2-2.5 cm. 甚だしく密花。腋生又頂生。殆ど無柄。花は稍無柄。苞は線狀披針形。萼より少しく長。平滑なるも基部に縁毛あり。鋭尖頭。萼裂片は不同長。長さ 3-4 mm. 平滑。線狀披針形。長鋭尖頭。縁邊には二三の縁毛ある事あり。花冠は長さ 5 mm. 花筒は短筒形。長さ 3 mm. 平滑。内面中央部以上に開出毛あり。上裂片は正三角形。稍鈍頭。二脈。他の三片は卵狀三角形。鋭頭。一脈。雄蕊は花筒の中央部より下部に着生。花糸は針形。葯は長さ約 1.5 mm. 花柱は稍太き糸狀。長さ約 5 mm.

正宗巖敬氏が台灣。新竹州産の島田彌市氏の採集品から記載された種類で。見た所内地産のトラノヲスズカケに非常によく似たものであるが葉質が一層厚くて硬く。葯が大きい相違がある。私は台北州。大甲溪の上流で塩見正氏が採集した標本を見て居る。その標本によると花糸は無毛ではなくて一般同屬植物と同じ様に下部に開出毛がある。既知の種類で一番似て居るのはやはりトラノヲスズカケであらう。又支那産の *B. latifolium* Hemsl. にも似て居るが此れは圖や記載によると葉が薄く。又花筒と裂片との比が違ふから立派に區別が出来る。

6) タロコサウ

Botryopleuron Kitamurae (OHWI) OHWI²⁾ comb. nov.

Calorhabdos Kitamurae OHWI in FEDDE Repert. 36 (1934) 54.

斜上又は懸垂する 20-30 cm. の草本。全体平滑。莖は狭き翼を有す。葉は長さ 4-6 cm. 巾 1.5-2 cm. 廣披針形。鋭頭又は鋭尖頭。稍楔脚。殆んど無柄。稍壓着せる鋭鋸齒を有す。總狀花序は稍密花。円柱形。長さ 3-6 cm. 有葉の短側枝上に頂生す。花軸は有稜。花は知られず。果實は斜上。長さ 2-3 mm. の柄あり。苞は線狀披針形。長さ

1) Maxime affine *B. axillari* HEMSL. et *B. latifolio* HEMSL., sed differt a priore foliis subcoriaceis nec herbaceis, antheris ca. 1.5 mm longis (nec $\frac{2}{3}$ mm), et a posteriore foliis suboriaceis nec flaccidis, corollae tubo sesquiplo longiore quam lobis.

2) Arcte affine *B. venoso* HEMSL. et *B. stenostachyo* HEMSL., a quibus diversum imprimis caulibus anguste alatis nec teretibus.

Oct. 1935.

129

2-3.5 mm. 鋭尖頭. 萼裂片は線状披針形. 長さ 2-2.5 mm. 鋭尖頭. 種子は長さ $\frac{1}{2}$ mm. 一面偏平. 他面凸形. 稍円形.

本邦品中最も異彩のあるもので丈が低く. 葉が巾狭く. 莖に翼があるのが著しい特徴である. 台湾. 花蓮港廳. タロコ峽の産. 支那にも之れに似た種類があるが (*B. venosum* HEMSL. 及び *B. stenostachyum* HEMSL.) 莖に翼のある點で相違する.

以上本邦産のものについて各種を説明したが支那産のものとしては數種が報告されて居るに過ぎぬから餘白をかりて略述しやう.

1) ***Botryopleuron venosum*** HEMSL. in HOOK. Icon. Plant. 27 (1900) t. 2670—*Calorhabdos venosa* HEMSL. in Journ. Linn. Soc. 26 (1890) 197—殆んど平滑の草本. 莖は円柱形. 葉は披針形. 長さ 13 cm. に達す. 脈は下面隆起. 花序は長さ 2.5-4 cm. 花筒は裂片の長さの約二倍半——浙江省. 湖北省.

2) ***Botryopleuron stenostachyum*** HEMSL. l. c. (1900) sub t. 2670.—*Calorhabdos stenostachya* HEMSL. l. c. (1890) 196.—前者に似て全体強壯. 葉脈は著しからず. 花序は繊細. 長さ 10 cm. に達す. 花は小形.—湖北省. 四川省.

3) ***Botryopleuron axillare*** HEMSL. l. c. (1900) sub. t. 2670—浙江省. 江西省. 湖北省. 四川省——トラノヲスズカケ——説明を略す.

4) ***Botryopleuron latifolium*** HEMSL. l. c. (1900) sub t. 2670——トラノヲスズカケに似て葉が薄質. 廣卵形又は殆ど円形. 長さ巾共約 5-6 cm. に達す. 花序は甚だ密花筒は細く. 円柱形. 裂片は三角形. 花筒より甚だ短かし.—湖北省.

5) ***Botryopleuron yunnanense*** W. W. SMITH in Notes Roy. Bot. Gard. Edinb. 10 (1917) 9.—蔓狀の半灌木. 枝. 葉柄. 葉裏及表面脈上に黄褐色の短毛あり. 葉は卵形. 長さ 5 cm. 巾 2.5 cm. に達す. 花序は長さ 2.5-5 cm. 短かき側枝上に頂生し. 花冠は長さ 5-6 mm. 花筒は円筒狀. 裂片は長さ約 2 mm. 披針形. 雄蕊は二個. 超出. 中央部に鬚毛あり. 蒴果は中に小數の種子を有す.—雲南省.

6) ***Botryopleuron longispicatum*** MERR. in Philipp. Journ. Sci. 21 (1922) 509. 直立少しく分枝する高さ約 1 米の灌木. 花軸. 苞. 花冠外面等に栗色の腺毛を有する外は平滑. 葉は卵形又は長楕円狀卵形. 長さ 8-13 cm. 巾 4-7 cm. 花序は腋生. 長さ 10-18 cm. 短柄. 花筒は長さ約 5 mm. 裂片は長さ 1.5-2 mm. 葯は長さ 2 mm. 子房に毛あり.—廣東省.